

## 図書館協議会会議録より（駅北複合公共施設関連抜粋）

※文面統合・省略等の加工あり

令和 2 年度（第 2 回）	令和 2 年 10 月 20 日（水）14 時～15 時	中央公民館	視聴覚室
<b>■ 瑞浪市公共施設再編成プランについて（事務局説明）</b>			
<p>（事務局）瑞浪市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再編を進めている。学校、幼稚園、文化施設、市営住宅等の全公共施設を対象に、今後 50 年間で延床面積 30%減を目指している。同時に瑞浪駅周辺の再開発計画もあり、駅北地区に複合公共施設を建設し、その中に文化ホールと図書館が入ることが計画されている。公共施設再編成プランに係るパブリックコメントが 12 月から始まる。図書館協議会委員の立場として、図書館を移設するうえでの要望等を今後お聞かせいただきたいと考えている。</p>			

令和 3 年度（第 1 回）書面開催	意見聴取期間：令和 3 年 6 月 25 日～7 月 14 日		
<b>■ 瑞浪市公共施設再編成プランにおける図書館について（意見交換）</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前周辺は老朽化が著しく開発の必要性を感じるが、中央公民館も図書館もさほど老朽化していないと思う。駐車場が狭いとは感じるが、今の場所がとても利用しやすいと感じる。駅北へは線路を越して行くため遠くなるイメージ。車なしでは行けない方も増えるのでは。</li> <li>・ なぜ駅北地区なのか。図書館の面積が小さくなれば蔵書数も減少せざるをえないが、図書館の機能を低下させ利用者にとって不利益となるのではないか、図書館にカフェ機能は必要か。もっと広く意見を求めるべきだと思う。</li> <li>・ 人が集う場所となるために、現場で働いている方たちの意見や要望を積極的に取り入れながら再編プランが進められていくことを望む。</li> <li>・ 市民図書館は、瑞浪市の歴史・文化等を後世に残す重要な役割を担うと同時に、市民の学習と憩いの場としての機能を有すべきと考える。再編にあたっては、市民ニーズをしっかり把握し、市民目線に立った市民のための施設再編を希望する。併せて、家庭ではなかなか学習できない環境に置かれた学生のための学習スペースも現在同様確保されることを期待する。</li> <li>・ 居心地の良い場が良いと思う。楽しみにしている。</li> <li>・ とても夢のあるプランであると思う。「未来の子どもたちに渡せるまち」という全体コンセプトの中にも図書館が中核として位置づいてほしいと願う。</li> </ul>			

令和 3 年度（第 2 回）	令和 3 年 10 月 29 日（水）14 時～15 時	中央公民館	視聴覚室
<b>■ 前回書面会議録の確認と意見交換 【公共施設再編プランについて】</b>			
<p>（委 員）蔵書数・学習スペースが減り、図書館機能の低下につながるのではないか。</p> <p>（事務局）現時点の計画では、図書館の面積・蔵書数の削減は考えておらず、学習スペースも拡充する方向である。皆様のご意見を聞きながら「多目的な人が気軽に訪れることができるサロン型の図書館」をめざして計画を進めている。</p> <p>（委 員）駅周辺が充実しても、他地区からは距離があり子どもや高齢者は行きにくい。市内で不均衡が生じないよう公共施設再編プランを進めていただきたい。決定報告ではなく、協議できる情報が欲しい。</p> <p>（事務局）先進地視察で得た情報等を提供し、皆様のご意見を聞きながら進めていきたい。</p>			

令和3年度（臨時意見集約）	意見聴取期間：令和4年2月18日～3月4日
<b>■ 瑞浪駅周辺まちづくり基本方針【案】に対する意見集約</b>	
<p>（図書館関連部分のみ抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や働く人の動線、使いやすさを重視して欲しい。サロン型となることで、利用者のマナーにより気を配る必要があり、また書庫の利用が増えることで、働く人の負担が増える可能性があることを考慮して欲しい。ぜひ働く方々の意見を積極的に取り入れていただきたい。</li> <li>・サロン型ゆえに居づらくなる人への配慮が必要。個室や区切られた空間などがあると良い。</li> <li>・図書館の基本的な機能を十分に果たすために、書庫のスペースの充実が必要。</li> <li>・市民図書館は、瑞浪市の歴史・文化等を後世に残す重要な役割を担っているものと考えている。同時に市民の学習と憩いの場としての機能を有すべきとも考える。再編にあたっては、市民ニーズをしっかりと把握し、市民目線に立った市民のための施設再編を希望する。</li> <li>・家庭ではなかなか学習できない環境に置かれた学生もいると思う。学生の学習スペースも現在同様確保されることを期待する。</li> <li>・居心地の良い場が良いと思う。とても夢のあるプランだと思う。「未来の子どもたちに渡せるまち」という全体コンセプトの中にも図書館が中核として位置づいてほしいと願う。</li> <li>・現在の図書館の蔵書量が中途半端だと感じていた。今はスマートフォン等で簡単に本が何冊でも読むことができる。極論だが、スマートフォン等で本を読む権限（機能）を与えてもらえれば、図書館がなくてもよいのではないかと感じる。読まれることのほとんどない本を何冊も保管するのではなく、多額の費用をかけるなら他の機能を充実させる方向に使うのはどうか。今の時代に合った魅力がある施設づくりをして欲しい。</li> <li>・キッズスペースは、ただ遊びにくるためのスペースではなく、家庭教育等に関する相談場所が併設された方がよいのではないかと感じる。施設のことだけを考えるのではなく、そういった相談場所に派遣される人材等について検討する等、人が育ち・幸せを求めることができる施設を実現するための視点に立って方針を示してほしい。</li> </ul>	

令和4年度（第1回）	令和4年11月9日（水）14時～15時10分 中央公民館 視聴覚室
<b>■ 継続協議：駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方について（事務局説明）</b>	
<p>（委員）駅北複合施設の整備が令和10年度を目途に計画されているが、今この1時間の審議や残り1回の審議で意見が反映されるのか、本当に伝わるのか心配している。パブリックコメントで市民の意見を聞いているが、直接面と向かって話をしないと市民は何も言わない。複合施設の機能をよく周知させることが大切。</p> <p>（事務局）新施設の周知は今後確かに重要となる。現段階における市の協議体制として市民を交えた意見交換の場が少ないことについても、動きとしては遅いと感じている。ただ、新図書館の運営に関する内容についてはまだ反映の余地があると認識している。この協議会ではどのように本の楽しさを伝えていくのか、学校との連携をどうしていくのかといった運用面について主に協議していけたらと考えている。</p>	

令和4年度（臨時意見集約）	意見聴取期間：令和4年2月2日～2月17日
<b>■ 瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プランの策定に向けた意見集約</b>	
<p><b>テーマ：関係機関の連携強化にあたっての課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園は学校の授業のように「この時間は何」と決められたものがなく（ない所が良さだと思っている）、集中する時間も短いため、活動の流れに合わせて「すきま時間」に絵本を活用することが多い。そのため、一緒に活動している保育士が絵本の活用をすることが多く、コロナ禍でもありなかなか地域の方に来ていただくのは難しいと思う。しかし、地域との関わりはいろいろな方法で実施していきたいと思っている。</li> </ul>	

- ・職員・保護者等への研修の必要性を各機関で年間通じて計画し、家庭への読書の啓蒙、黙読・読み聞かせのスキル等を高めたり、知る機会を設けたりすることが必要。
- ・本の貸し出しには幼稚園や学校によって相違があるため、職員にももう少し本選び等の意識が育つとよい。また、図書利用をすることも知らせるとよい。
- ・連携をとるための手段・ネットワークの構築が必要。そして、読書の意義を理解している専任の職員の配置が重要だと思う。
- ・いろいろなイベントがあらゆる所で催されている。大型紙芝居やボランティアを活用し、駅前広場等を利用して「野外紙芝居」を開いたらよいと思う。
- ・子どもが読書を継続するためには、楽しいという体験を積むことが必要だと思う。学校と家庭との連携が特に必要だと思う。
- ・市民図書館を核として、ブックトーク・読み聞かせの機会をより多く実施し、子どもの読書活動を一層推進していく。そのためには、ブックトーク・読み聞かせにより専念できるスタッフが必要。市民図書館内はもとより幼稚園・学校・地域（子ども会等）内で、今より実施数を上げることに努めたい。
- ・市民図書館蔵書の検索システムの構築。学校図書館にはない図書がタイムリーに検索できれば、学校と市民図書館が学習においてつながり、来館する必然性が生まれる。
- ・活動内容の周知が少ないと思う。学校からのプリント配布等を利用し活動を周知してはどうか。

令和4年度（第2回）

令和5年2月9日（水）14時～15時30分 市民図書館 研修室

■ 継続協議：駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方について（意見交換）

テーマ①開館時間

- ・小学生から大学生、高齢者等、利用者層によって利用時間帯が異なると思われる。どこのニーズに合わせるかが問題。スタッフのローテーションを上手く組んで、平日に関しては駅利用者を考慮し21時頃まで、土日は朝9時から18時頃までがよいのではないか。
- ・駅近くという立地を考慮し、駅をよく利用する高校生や通勤者がいつ帰宅するか、時間帯の統計を取りながらよくリサーチして考えてほしい。限られた職員を有効に配置する必要がある。貸出返却システムの機械化による合理化も必要。複合施設全体で開館時間を合わせた方が利用も増えると思う。

テーマ②駐車場料金

- ・駐車場に入る車は基本的には有料でいいと思うが、図書館利用者は無料にすべき。図書館利用者が図書館を出る際に駐車料金が無料になるようなシステムを取り入れれば明確に分かる。ただし、図書館利用者を全て無料とすると、図書館から出て他の場所に行った時間も含めて無料になってしまうため、図書館の入館から退館の時間とそこから車に戻るまでの10分程度を無料にするような仕組みがよい。名古屋等の駐車場でよく見かける機械のように、清算してから何分間は無料とすれば出庫時に慌てなくて済む。全て無料にするのではなく、図書館利用に関してのみ明確化するのがよいと思う。
- ・より多くの市民に利用していただくためには、ある程度の無料時間の制限は必要だと思う。
- ・平日は駅北の駐車場は満車になる。先日のバサラカーニバルでは車を止められなかった。これは料金以前の大きな課題。イベント時に収容台数を大きく上回る最悪の場合を想定して検討を進めていただきたい。
- ・メイン駐車場の他に周辺に第2・第3駐車場をあらかじめ準備し、周知する必要があると思う。
- ・子ども連れやベビーカー、シニアの方等が建物の近くに駐車できるか懸念する声もある。建物内へアクセスしやすい場所に駅利用者が早い時間帯から駐車してしまうと施設利用者が困る。
- ・駅北・駅南間の人の流れがスムーズになることが非常に大事。予算の制約上、跨線橋を簡単に作ることはできないにしても、人の流れがスムーズになる筋道を工夫しないと施設が点在してしまうことになる
- ・アクセスの問題はこの施設の決定的な条件になると思う。高校生が立ち寄りやすいかどうかという視点も重要となる

## ■ 継続協議：駅北複合公共施設における瑞浪市民図書館のあり方について（意見交換）

## テーマ「市民図書館と関係機関の連携のあり方」

- ・パレオパラドキシアの化石が発見されたということで、それを分室に活かしたいと思い、図書館に相談したところ、すぐに化石に関係する本を持って来ていただいた。初心者にとっても読みやすい本がたくさん並び、分室としてこういう連携の仕方があるのだと発見できた。今後も分室に作りたいコーナーや置きたい本があれば、図書館にお願いしていきたい。
- ・高校では学習指導要領が改定された関係で、探求型の学習を重視するようになってきた。それによりいろいろ調べる機会も増えていくと予想されるが、限られた予算の中で必要な冊数を準備することが難しいため、相互貸借や団体貸出という形で学習に関わっていただけるとありがたい。また、高校生の場合、特に勉強場所として図書館を利用することが多いため、グループでの学習も含め多様な場面を想定し、学習場所の確保をお願いしたい。
- ・現在、当校では環境やSDGsをテーマに取り組んでいる。学校にある本以外に図書館の本も活用しながら学校にコーナー本を設置できるとよい。
- ・新しい図書館は魅力的であることが大事。学習するために静かな空間を好む人もいれば、仲間と話ができる空間を選ぶ人もいるため、多様な空間が必要ではないかと思う。一時的に足を運んでいただけたとしても、魅力がなければ継続しない。学校としては、きっかけを与えたり、目的をはっきりさせたりすることはできるが、やはりそれに応えられるだけの魅力が必要。魅力の中身についても考えていかなければならないと思うが、視察で得た情報の中で実際に活用できそうなことを共有していただき、学校と連携しながら検討していけたらと思う。
- ・幼稚園ではICT化により保護者連絡はデータで配信することが多い。駅北移転等の市民に伝えたい情報や子どもを対象としたイベント情報についてもPDFデータ等を幼稚園に送っていただければ、ICTを有効的に活用し、保護者への様々な情報発信に協力できる。情報をどのように伝えるかは課題。情報量が多すぎると読んでもらえないかもしれないが、紙で配るよりはデータの方が読んでもらえる可能性が高い。
- ・移転予定の図書館が今よりもさらに魅力ある利用しやすい施設になるためには、人の存在は欠かせないと思う。働き方改革をする上での事務の機械化・合理化・効率化とともに、対面での丁寧な接客というところから、人との出会いがあるとよいと思う。また、静かな空間、おしゃべりができる空間、親子で気軽に過ごすことができる空間等、様々なニーズ、様々な空間モデルを描いて、限られたスペースにいかにか落とし込むかを様々な人の意見を聞きながら検討していただけるといい。
- ・ある新しい図書館は階数が分かれており自分としては利用しづらかった。眺めたときに広く見渡せる広い空間の方がどこに何があるかわかりやすい。移転予定の図書館ではそのあたりを考慮した空間づくりを行い、利用しやすい施設になるとうれしいと思う。また、年配者と子ども等、地域の人が様々な年齢層の人に出会うことができる施設であるとよい。地域の高校生同士が集まり交流できる場、高校生が企画してまちづくり組織に提案できる場、図書館に集まり図書館から様々な情報を得られる場等、そのような場面がこの施設で繰り広げられることは地域にとってもいいことである。
- ・駅南のまちづくりに関しても様々な課題がある。駅北と駅南が相乗効果を生むような形で盛り上げていけたらいいと思う。
- ・ブックトークを全ての小中学校で実施できるとよい。学校の翌年度の方針が決まる前に、校長会等の場において図書館が提供できる内容等を伝える機会を設けることで、つながり方を展開していけるといい。
- ・幼稚園にリサイクル本の提供ができないか。また、学校司書と図書館との間でもっと直接的なつながりを持ち、今後何ができるかという話し合いができるとよい。